

中間駅はバリアフリー法に基づく一日あたりの平均的な利用者数が5,000人以上の旅客施設ではありませんが、中間市と障害者団体等の皆さんの熱い要望と懸命な働きかけにより、バリアフリー化の改修工事が行われたものです。

今回の見学会は、改修された中間駅を当事者をはじめとする障害者団体の方々が実際に見て感じて触れて実体験してみたいという要望を受けて開催されたもので、参加者全員で一緒に歩き、体験し、意見交換しました。

今回、新設・改修された施設は、駅出入り口のスロープ、多目的トイレ、点字ブロックと内方線（転落防止点字ブロック）、音声案内、券売機への蹴り上げやエレベーターであり、身体障がい者（車いす）、視覚障がい者、聴覚障がい者の方々がそれぞれ実体験していました。

意見交換では、障がい者の方々から、「スロープ、エレベーターができたことで格段に移動がしやすくなった。」「ホームがかさ上げされたことで、電車への乗り降りがしやすくなった。」「車いすのままでも券売機が利用できた。」「多目的トイレには左右にトイレットペーパーが設置されているため利き腕にとらわれず利用できる」等の好評な意見があった一方、視覚障がい者より「内方線（転落防止点字ブロック）に沿って歩行すると既設柱にぶつかる。」「聴覚障がい者には非常ボタンを押しても聞こえないから表示方式にしてほしい。」「音声案内でトイレの位置を流しても点字ブロックが切れているためトイレの位置がわかりにくい」といった意見が寄せられました。

施設改修はバリアフリー法の基準に基づいて行うものの、既存施設については、建屋、通路幅等各種制限があるため、改めて難しさを感じるとともに、改修する側と利用者側との相互の意見交換が重要であると認識しました。

※当日の様子は、次のURLからご覧頂けます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_118_1.pdf

（交通環境部 消費者行政・情報課）

▼▼カーフェリーの船内見学会・モーターボートの乗船体験の実施▼▼

宮崎運輸支局では、さる3月4日、日南市立潮小学校の生徒9名、先生6名を対象に、宮崎港で宮崎～大阪航路に就航している宮崎カーフェリー(株)の「みやざきエクスプレス」の船内見学会と「サンマリーナみやざき」でモーターボート乗船体験を実施しました。

船内見学の前に、フェリーターミナル内で船や港の役割を説明したDVDを視聴した後、『船はどうして浮くのか』という題目で、生徒一人ひとりに粘土を手渡し、どんな形にしたら水に浮くのかという簡単な実験を行いました。

せんべいのような平べったい形やドーナツみたいな輪っかの形が次々沈んで行く中、唯一、船のようなお碗のような形の粘土が見事水に浮かび、その後の当支局職員の説明を受け「浮力についての理解が増したかな。」と思っています。

いよいよ、1万トン級の大型カーフェリーに乗り込みます。

実際このカーフェリーで大阪に行った生徒もいましたが、初めて目にするものに

